

6年：学級活動「みんながより良くつながるためには？」

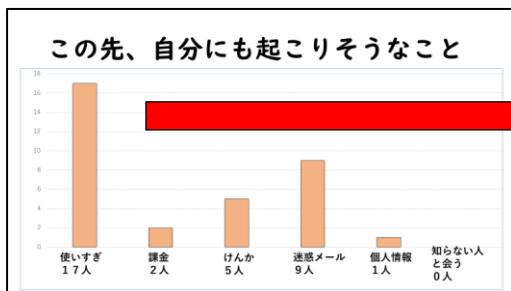
【内容】ロイロノートのアンケートを使用した実態把握
映像教材（ネット社会の歩き方）を活用した話し合い

【使用アプリ】ロイロノート
ネット社会の歩き方「<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>」

【事例紹介】

児童のメディア利用の実態を基に、参観日に保護者と一緒にスマートフォンなどの使用方法を見直すという学習を行いました。児童や保護者の感想を学年通信で共有することで、保護者啓発にもつながることができました。さらに、学級活動として年間を通して全3時間、デジタル・シティズンシップ教育に関する学習を段階的に行っていく予定です。

< 1. 児童の実態把握 >



< 2. SNS 依存についての学習 >



「ネット社会の歩き方」の動画教材を活用

< 3. 自分の目標を決める >



< 4. 家庭での見守り >

- 家庭でもしっかりルールを決め、タブレットやスマホを利用するように話し合っています。寝る前の利用に特に気を付けたいです。
- 使い過ぎによりトラブルなどが起きてしまうので、子どもと相談をして時間を見直していきたいです。

【終わりに】

ICTの利活用を前提に、児童・生徒の安全を確保しつつ、PCやスマホの善き使い手として、社会に役立つために必要な能力やスキルを身に付け、問題が起きた時の解決方法を考える力や実践力を養おうという新しい考え方の「デジタル・シティズンシップ教育」。本校でも、デジタル・シティズンシップ教育を実施するに当たり、児童の実態に応じてテーマをいくつかに分け、段階的に学習を継続していくことで様々な課題に対応していく力が伸ばせると感じました。また、家庭にも学習の様子を積極的に発信していくことで、保護者と児童が家庭で話す際のきっかけとなりました。

☆教育委員会主幹講評☆

夏季ICT研修会でも、「デジタル・シティズンシップ教育」について、多くの先生方が研修されました。そこでも、これまでの「情報モラル教育」で身に付けたインターネットの危険性に関する知識とともに、これからのデジタル社会を生きていく上で必要な能力を身に付けるための大切な学習であることを確認しました。今回の取組は、ICTを活用しながら、学校の中でデジタル・シティズンシップ教育を推進していただいている事例です。今後取り組まれる学校が、参考にさせていただきたいのが、保護者を巻き込んでの学習ができています点です。この教育は、子どもたちだけに向けた教育ではなく、家庭や地域も学び、理解していかなければならないものです。大変参考になる取組をありがとうございました。